

(2) 組織としての具体策立案のために ～短時間事例研究法～

今、各学校では諸問題に対する組織的な対応が求められています。そこで、比較的短時間で、組織としての具体策を立案する事例研究法を紹介します。ここでの「組織」とは、学校全体はもちろんですが、自校の実態を踏まえ、学年や校務分掌の部・係の3～4人の少人数までをも含んでいます。

短時間事例研究法の進め方(120分)

(1) 目的と進め方 [15分]

* 全体の時間配分、小グループ人数(4～5人)等は、実情に応じて工夫する。

① 進行役が準備物を配布し、事例研究の目的、進め方を説明する。

<目的> 短時間で、組織として具体的に指導援助策を立案する。

<準備>

付箋紙が貼れるスペース-----

- ・事例
- ・進め方資料(本ページ)
- ・記録用紙(個人研究用・グループ研究用)
- ・色違い付箋紙(小グループ人数分の色×3枚)
- ・マーカーペン(小グループ数分)

個人研究用記録用紙

優先順位	本人	学級	保護者	学年 学校他
1				▼
2				
3				

* グループ研究用は、小グループ人数に応じて一回り大きな同じ様式

(2) 事例の提示 [30分]

- ② 事例を読み、概要を把握する。
- ③ 担任(事例提供者)より、これまで具体的にどのような指導が行われたかを簡潔に補足する。
- ④ 具体的に指導援助策を考える上で、最小限の質問を受ける。

— 事例の内容(1枚) —

問題行動、保護者・家庭環境、生育歴・健康状況、学校生活・友人関係、能力・性格特性
本人の言葉や気持ち、指導経過